

ザ・パークハウス 晴海タワーズPR事務局



ザ・パークハウス 晴海タワーズ
クロノレジデンス

リチャード・マイヤー氏がコンセプトデザインを手がける 国内初の集合住宅が中央区晴海に誕生 世界的建築家がこれからの東京に提案する新たな建築デザイン

国内初 世界的建築家リチャード・マイヤー氏がコンセプトデザインを手がける集合住宅が登場

2011年秋ー中央区晴海2丁目で開発が進められていた大規模集合住宅において、世界的建築家リチャードマイヤー氏がコンセプトデザインを手がける事が発表されました。

スペインのバルセロナ美術館やイタリアのジュビリー教会など、数多くの世界に名だたる建築作品を手がけ、1984年に、建築界最高の賞であり、建築界のノーベル賞にも例えられるプリツカー賞を当時最年少の49歳で受賞した、リチャード・マイヤー氏が手がけるのは「ザ・パークハウス晴海タワーズ クロノレジデンス」。本ニュースレターでは、マイヤー氏が関わった、本物件のデザイン面のポイントをご紹介します。



【トピック一覧】

- | | |
|---------------------------------|----|
| ■リチャード・マイヤー氏 デザイン哲学と代表建築 | P2 |
| ■日本の伝統的なデザインと世界的建築家の理念が都心の海辺で調和 | P3 |
| ■グリッドシステム採用のランドスケープのデザイン | P4 |
| ■リチャード・マイヤー氏 プロフィール | P5 |

ザ・パークハウス晴海タワーズPR事務局（株式会社アンティル内） 担当：村木・坂元
TEL 03-5572-6064 FAX 03-5572-6065 MAIL : harumi@vectorinc.co.jp

■リチャード・マイヤー氏 デザイン哲学と代表建築

マイヤー氏が世界的な名声を得るに至った背景には独自のデザイン哲学が存在します。長い歴史と文化を持つヨーロッパでも評価された理由の一つとして、その土地独自の固有のものを尊重し、それと共存し、相互に発展していくためのデザインの組み合わせを追究していく姿勢があります。また、西洋文明の起源に用いられたギリシャやローマの幾何学プロポーションや、自然光を活かすための白を基調とすることで、建物そのものが持つ要素を最大限に引き出していることも特徴として挙げられます。このようなマイヤー氏が持つデザイン哲学は、今回日本の晴海という土地でどのような形で表現されたのでしょうか。

・デザイン哲学

“創造的な建築を作り出すには、過去と未来の両方を考慮に入れる必要がありますが、我々は長年に渡って、懐古的な過去へさかのぼったり、単に未来形を想像するようなアプローチではなく、現在その土地にある固有の可能性を探求し、そこから建物がどのように地域と相互に発展していくのか、それに求められる独自の条件の組み合わせを模索し、流行に流されることのないデザインを創造してきました。

特に、調和の取れたプロポーションとスケールの探求は、建築デザインにおける基本的かつ普遍的な課題です。我々が手掛ける建築の構成要素は、西洋文明の起源にギリシャ人やローマ人に用いられてきた幾何学的なプロポーションに基づいています。この人体のプロポーション、スケールに基づいたグリッドが、より大きな建築デザインのモジュールを構成し、構造システムの動線、ならびにファサードなどの建築要素、あるいは建物全体の調和へと導いています。

また、抽象的な建築形体は、自然光との相互利用によって自然と調和します。我々のデザインは、自然光を基本素材として取り扱い、それを演出することで空間を創造し、形体として定義しています。流れ込む光の流動的な性質を捉えて反映するため、建物の基本要素（空間、ボリューム、安定感、隙間、不透明、半透明、透明等）を最も明解に表現する白色が用いられ、日々の移ろい、季節、天候の変化によって異なる表情を見せる建築を創り出しています。”

・代表建築



所在地:アメリカ マイアミ
建築年:1979年
用途:個人住宅

パルム・ビーチ(アメリカ)

アメリカのマイアミで個人宅として設計をされました。比較的初期の作品ながら、マイヤー氏の特徴である「白」で統一されたデザイン住宅として広く知られています。



所在地:イタリア ローマ
建築年:2000年
用途:教会

ジュビリー教会(イタリア)

ニューミレニアムを祝った、ローマ教皇庁の一種のキャンペーン：「50 churches for Rome 2000（2000年にあと50の教会を）」の一貫として計画。上記により開かれた指名コンペで、マイヤー氏は世界の屈指の建築家連を抑え、本プロジェクトを手に入れました。



所在地:スペイン
バルセロナ
建築年:1995年
用途:美術館

バルセロナ現代美術館(スペイン)

バルセロナ旧市街に立つ美術館。ヨーロッパにおけるマイヤー氏の代表的な建築作品として知られています。政府、現代アート財団などが協賛した上で、設計者にマイヤー氏を選び、バルセロナ市長がマイヤー氏をバルセロナに直接呼んで現代美術館について考えてほしいと依頼した結果、誕生しました。



所在地:アメリカ
ニューヨーク
建築年:2002年
用途:集合住宅

165 Charles Street & 173/176 Perry Street

マンハッタンの人気エリアに位置するコンドミニウムは、2002年に完成しました。大きな窓とガラス張りのシースルーが、最新のデザインで注目を集めています。16階建ての超高級コンドは、ハドソン川が一望できる最高のロケーションを誇り、多くのセレブリティが購入したことで話題になりました。

■世界的建築家の哲学と都心の海辺との調和

・新たに東京の湾岸エリアに誕生するマイヤー作品となるタワーマンション

今回、新たに発表されたマイヤー氏がコンセプトデザインを手がけた「ザ・パークハウス晴海タワーズ クロノレジデンス」は、地上49階・地下2階、総戸数883戸の大規模タワーマンション(高さ約175m)となります。丸の内約3.5km圏・銀座約2.5km圏内に位置する中央区晴海という都心立地を最大限に活かし、ハード・ソフト・デザイン面において“フラッグシッププロジェクト”に相応しい要素が盛り込まれた日本国内では初となるマイヤー氏デザインの集合住宅です。

・デザインコンセプト

本物件は、伝統的な日本のデザインコンセプトとマイヤー氏の理念が結び付き、文化的背景や環境と調和したランドマークプロジェクトとしてデザインされました。

それらは、自然にある素材、光、現象を駆使して、形態、空間、質感を明確に表現することを目指してデザインされており、それには、具体的なテーマを表現することを意図するよりも、むしろ美術工芸品に見られるような工芸の美しさを示しています。そのために具体的な表現の代わりに、自然の中によく見られる現象を用いてデザインの原理、あるいは原則を伝え、全体に渡って層を重ねて階層的な関係を構築し、自然と人為的な物との調和を図っています。また、繰り返される自然の変化を応用して、最終的に必要な要素のみをデザインに取り込み、秩序、均衡、リズム感を創り出しました。



■白を基調とした外観

外観は、マイヤー氏のデザインの特徴であり、自ら至高の色と表現する「白」を基調としたデザインとなっています。自然にある素材、光、現象を駆使して、空間と質感を明確に表現し、四季の移ろいや天候の変化によって多彩な表情を見せる外観を創出しました。また、マイヤー氏は調和の取れたプロポーションとスケールの探求を、建築デザインにおける基本的かつ普遍的な課題と捉えています。建築の構成要素は、ギリシャ人やローマ人に用いられてきた幾何学的なプロポーションに基づいています。この人体のプロポーション、スケールに基づいたグリッドが、より大きな建築デザインのマジュールを構成し、構造システムの動線、ならびにファサードなどの建築要素、あるいは建物全体の調和へと導き、通常のタワーマンションとは一味違う風格を醸成しています。



■“織り布”をイメージした外観デザイン

物件は、本体建物を布の様に高度に折り込まれた格子状のルーバースクリーンで覆うことで形作られています。その最大の狙いは、折り込まれたスクリーンの表面と、内側の透明なガラス面との間に作られる奥行きによる効果を創り出すことにあります。ルーバースクリーンとガラスファサードを組み合わせた構成を建物全周に回すことで、遠方からは、どの角度から見てもユニークで象徴的なイメージを創り出します。建物に近づくにつれて、水平と垂直のスクリーンの形体にリズムが感じ取れるようになるため、スクリーンとその背後にあるガラス面による細かい光と影のイメージへ変化していきます。



格子状スクリーンは、各バルコニー手摺の上端と下端に設けられた水平ルーバーによって構成され、遠方からは深く編みこまれた質感を与えます。更に住戸内部からの眺望も確保しながらも、垂直のメタルフィン等を等間隔でルーバーの間から飛び出させることで、水平ルーバーの強い水平性を対比させ、本体建物のファサードに変化をもたらしています。また、クラウン(建物頂部)のデザインにおいては、建物本体を包み込んでいるルーバースクリーンの関係が逆転し、透き通るガラスボックスの様な風よけスクリーンが特徴となっています。

■グリッドシステム採用のランドスケープデザイン

ランドスケープのデザインは、敷地に一体感を持たせるために、規則正しいグリッドシステムを採用し、ところどころ特徴のある空間を配置し全体を構成しています。物件の敷地は東西約110メートル、南北に約130メートルで、面積約14,900平方メートルの街区となっています。敷地には、6メートルの間隔でグリッド状に樹木が配置され、プライベートな空間とパブリックな空間を仕切る自然の遮蔽物を作り、規則正しい一体感を与えています。これらの樹木は、プライベートな空間とパブリックな空間を設定する役割だけではなく、木陰を創り出したり、敷地の景観をコントロールする機能を持ちます。こうした樹木の間隔は、調和された二次的な空間要素を設けるために必要に応じて変化をさせます。



■内部と外部を結びつける低層部デザイン

タワーの低層部は、水平なランドスケープと垂直なタワーをつなげる部分であり、タワーの頂部から地面まで連続させることで、垂直に伸びるタワーの始点としての役割を持ちます。低層部の平面は計画敷地、さらには敷地周辺との関係を明確に示しています。タワーのファサードデザインは、3階のバルコニーの高さで、白い金属パネルで仕上げられた低層部分から切り替わります。正方形の平面を持つ各低層部の4立面は立体的、又は平面的なエレメントで構成されます。北側には、屋上緑化あるいは平置駐車場の屋根として水平に突き出したプレート、南側のプライベートルーフテラス、西側にはタワーのエントランスホールとしてのガラスのパビリオン、東側には地面から2階のバルコニーまで伸びるスクリーンなどのエレメントがタワーとランドスケープを関係付けます。更にそれらのエレメントに適切に開口を設けることにより、内部と外部との関係を更に強いものにしていきます。



■開放性とプライバシー性の高さを両立したエントランス

エントランスおよびウォーターガーデンには、敷地の北側に設けられた水辺により、外部歩道との間に物理的な分離帯を創り出し、更にウォーターガーデンには視覚的、聴覚的な和らぎを提供するための噴水が設けられています。エントランスには北西側の水面を眺めることができるように、2階分の高さを持つガラスのエントランスホールを設け、開放的な空間を演出します。エントランスホールは、タワーの向きに平行に、道路に対しては斜めに配置されています。ホールが道路に対して向きを変えて配置され、外部の通りからホールまでに適度な距離ができることで、開放的でありながら、外部からは遮断されたプライバシー性の高い空間となっています。



■洗練された都会の空間を表現したエントランスホールのインテリア

エントランスホールは、外部の緑豊かなランドスケープとタワー内部の居住空間や付属施設とをつなぐ、静かで洗練されたラウンジとなっています。内部は透明ガラスのファサード、グレーの御影石、又はアルミパネルを基本的な素材として使用しています。これらの素材やその他のディテールを綿密に検討することで、空間や光を純粋に表現することができる洗練された空間を実現しています。



■リチャード・マイヤー氏プロフィール

1934年生まれ、モダニズム建築家の雄。コーネル大学で建築を学び、1963年にニューヨークに設計事務所を設立。コネチカット州のスミス邸やミシガン州のダグラス邸など、初期の住宅プロジェクトで自然光の演出をテーマとした革新的なデザインを発表し、自らのデザインの基礎を確立。米国、ヨーロッパ、アジア等世界各国で活躍しており、ロサンゼルス・ゲッティセンター、ローマのジュビリー教会、バルセロナ現代美術館などは、国際的に高い評価を得ており、今も都市のランドマークとして人気を博し、広く愛され続けている。1984年に、建築界最高の賞であり、建築界のノーベル賞にも例えられるプリツカー賞を当時最年少の49歳で受賞。その他受賞歴多数。



1972年 アーノルド・ブルンナー記念建築賞(アメリカ芸術文学アカデミー)受賞
1984年 プリツカー賞受賞
1989年 イギリス王立建築家協会ゴールド・メダル
1997年 高松宮殿下記念世界文化賞・建築部門受賞者
1997年 AIAゴールド・メダル受賞

■ザ・パークハウス晴海タワーズ クロノレジデンス 物件概要

所在地	: 東京都中央区晴海二丁目28番(他3筆)
交通	: 都営地下鉄大江戸線「勝どき」駅徒歩11分
構造・規模	: 鉄筋コンクリート造、地上49階・地下2階
総戸数	: 883戸
敷地面積	: 14,925.81㎡
延床面積	: 99,595.18㎡
専有面積	: 42.01㎡(トランクルーム0.64㎡含む)～158.20㎡ (トランクルーム0.66㎡含む)
間取り	: 1LDK～3LDK
事業者	: 三菱地所レジデンス株式会社・鹿島建設株式会社
設計	: 株式会社三菱地所設計
施工	: 鹿島建設株式会社
工期	: 2010年6月15日～2014年3月予定
竣工予定年月	: 2013年11月下旬予定
入居時期	: 2014年3月下旬予定
販売開始予定時期	: 2012年1月下旬予定
物件HP	: http://www.tph-harumi.com